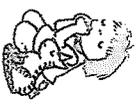




いずみのひるば

2022年4月号
日本基督教団 聖公会
No. 519 聖公会



『ペトロ、聖イエスを知らないと言う』

マルコによる福音書 14:66~72

イエスさまは『最後の晩餐』のあと弟子たちに「今夜、あなたがたは皆わたしを裏切るだろう」と言われました。そしてペトロさんに「にわとりが三度啼く前に、あなたは三度わたしを知らない、と言うだろう」と言われました。そしてイエスさまは弟子たちを連れてゲッセレの園でお祈りをなさり、終えられたのち捕まえられてしまいました。すると、あとき言われた通り、ペトロさんも、ほかの弟子たちと共にイエスさまを裏切って逃げてしまいました。でもペトロさんは勇気を出して、見つからないようにこっそり後をついていきました。

やってきたのは大祭司の厩敷です。そこではイエスさまの裁判が行われようとしていました。ペトロさんは中庭に入っていく、腰をおろして遠くから裁判の様子を見ていました。イエスさまは裁判で懸口を言われ、うそをつかれています。がじっと黙ったままです。前かたがりして辛く苦しい様子です。ペトロさんのまわりにいる人たちはイエスさまの懸口を言っています。ペトロさんは、だんだん痛くなってきました。弟子だとはれたら、つかまってしまいます。そしてついに近くにあった女の人から「あなたはあのイエスと一緒にいたでしょ」「この人はイエスの仲間よ！」と言われてしまいました。ペトロさんは必死に「そんな人知らない！」と 말했습니다。ペトロさんは、イエスさまの事より自分の身を守ることで精一杯です。そして呪いの言葉、苦しい言葉で「あんなやつ、知ってるわけないだろう！」とまで言ってしまったのです。そしてその時、にわとりが啼きました。ペトロさんは「にわとりが啼く前に三度わたしのことを知らないと言うだろう」というイエスさまの言葉を思い出しました。そしてそとに飛び出すなり、激しく泣きました。イエスさまを裏切ってしまった自分が、こんなに弱く卑怯で醜いものであることを思い知ったのです。けれどもイエスさまは、ペトロさんが裏切ることを初めから知っていました。そして、それでもペトロさんの事を愛して下さったことに気付いたので、わたしたちもペトロさんのようにスルイところや、卑怯なところ、醜い心を持っていきます。けれどもイエスさまは、そんなわたしたちのことも絶対に嫌いにはなりません。そんなわたしたちを知っていて、それでも愛し許してください。その証拠が十字架です。わたしたちの罪を許し救うために、十字架にかかってくれたのです。